

しがらきだいななきょう
信楽第七橋



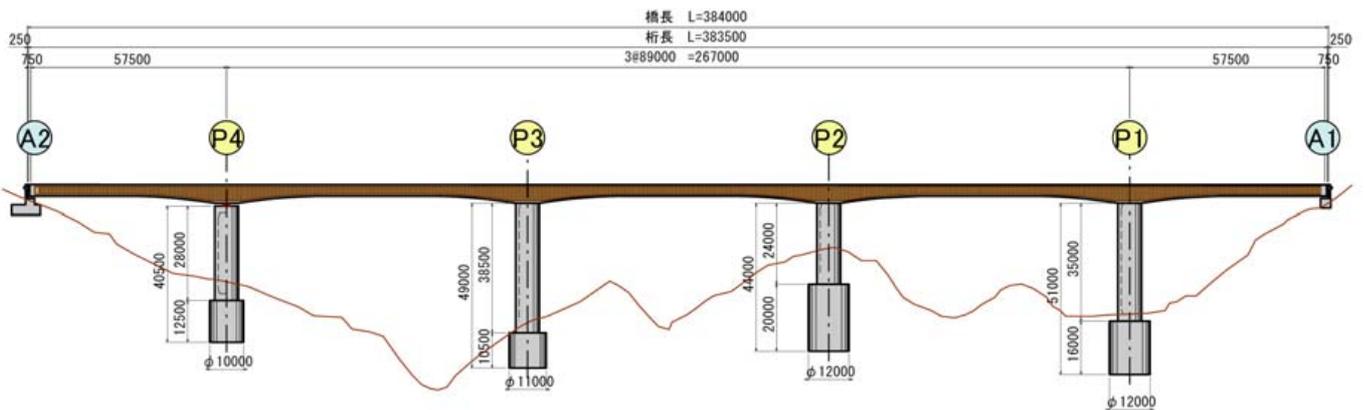
信楽第七橋は、第二名神高速道路の大津 IC と信楽 IC 間に架橋される橋長 384.0m の 5 径間連続ラーメン波形鋼板ウェブ箱桁橋です。

本橋は、津久見川橋（東九州自動車道）と同様に、波形鋼板を架設材として利用する張出し架設工法およびプレキャストリブおよび埋設型枠（PC板）を用いた断面を採用して、現場施工の省力化、急速化を図っています。



一般図

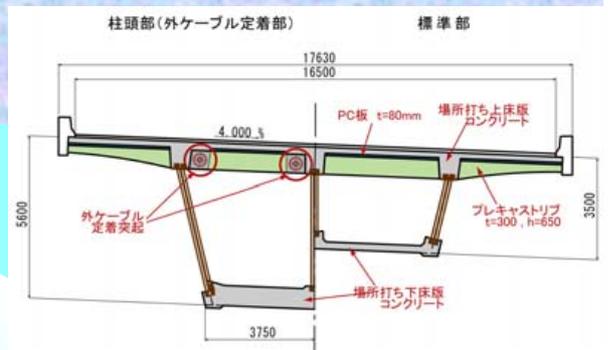
側面図



橋梁諸元

- 工 事 名：第二名神高速道路 信楽第七橋（PC上部工）工事
- 発 注 者：日本道路公団 関西支社
- 位 置：滋賀県甲賀郡信楽町大字黄瀬
- 道路規格：第1種第1級
- 形 式：5径間連続ラーメン波形鋼板ウェブ箱桁橋
- 荷 重：B活荷重
- 橋 長：384.0m(57.5 + 3@89.0 + 57.5)
- 総 幅 員：17.63m（有効幅員 16.5m）
- 架設工法：張出し架設工法
- PC鋼材：主桁縦締め鋼材 SWPR7B 12S15.2（アンダーソン工法：外ケーブル）
SWPR7B 19S15.2（アンダーソン工法：外ケーブル）
- 床版横締め鋼材 SWPR19 1S21.8（SM工法：プレグラウト）

断面図



構造・施工概要

- 1) 張出し外ケーブルの必要本数の減
 本工法は、最終ブロックの上床版を打設する前に波形鋼板を先行して連結させて、最終ブロックの張出し外ケーブルをなくしています。
- 2) 施工の合理化
 張出し外ケーブルの通過および偏向位置、角度を統一することによりプレキャストリブを標準化しています。また、定着具やスパイラル筋をプレキャストリブに埋め込んで、現場施工の省力化を図っています。
- 3) 外ケーブル定着突起の实物大実験
 外ケーブル定着突起本体および突起付近の波形鋼板との接合部などの一体性、安全性については、实物大実験で確認しています。
 (新しい張出し架設工法の施工サイクルについては津久見川橋(No.64)で紹介しています。)

側景



实物大実験

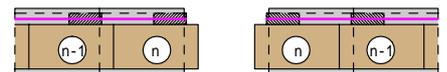


張出し外ケーブルの必要本数の減

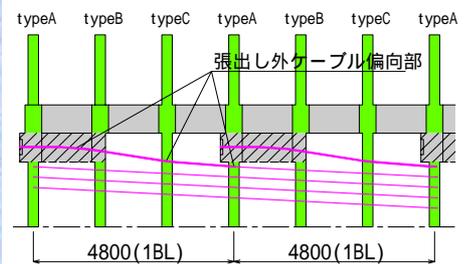
本工法



従来工法



施工の合理化



工程表

項目	平成14年												平成15年												平成16年											
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
詳細設計	■												■																							
準備工	■												■																							
柱頭部													■												■											
張出し施工部													■												■											
側径間中央閉合																									■											
橋面・付属物・後片付け																									■											